

# 基調報告

〈日本赤色救護会〉

くはじめに

本集会に結集された全この労働者、学生、市民諸君と共に連合赤軍による銃撃戦を断固として支持し、彼等の革命性、英雄性、献身性を賛えんと共に、革命戦争の犠牲者達に対して深い哀悼の意を表わしたいと思ひます。

この銃撃戦は追いつめられたところから発し、「計画された戦術」ではなかつたけれども、日本における階級斗争史上かつてなかつた銃による帝国内部軍隊—機動隊との戦いとしてあり、我々はこの戦いの偉大さを高く評価し、その革命性、英雄性、献身性を無条件に支持する。我々は、この戦いの重みを決して忘れなう。

くたくなが、この銃撃戦は敗北した。これは冷徹なる事実であり、敗北には何らかの決定的な原因があるのである。これを徹底的に明らかにする中で、「人民の軍隊—人民」の武装斗争の陣型を創出し、ゆたかなるべきでない。とて我々は、この作業に再度新たに着手するにあつて我々を、我々の運動を支持し、支援し、応援してくれたい多くのの人々、とて、肅清されていった兵士達に、とて、全このプロレタリアートとその友人

4

達に対する自己批判が出發せねばならない。開始された銃撃戦が中途挫折を余儀なくされたこと、「党内斗争—党（軍）の団結の強化」を肅清という、形の結果させたこと、兵士達の死とにあらう人々の失望をまねき、敵につけいるべきを与えたこと、とてこれの総体を一時的にせよ革命戦争を暗闇の中引きずり込んだことの責任の一端は我々にあるのだが我々はこの自己批判抜きには何事も語り得ないし、何事も成し得ない。

くたし、一方ではいつも臨戦体制にあることを忘れてはならない。銃撃戦の敗北を媒介として連合赤軍内に巻き起こされた肅清が明らかになり、その事によつて敵権力の全面的な攻勢と味方内部に広汎な動揺が起つてゐる。我々はこの動揺を押し隠す必要はない。それは我々がまじめに事の重大性を把握するとしてゐる証左なのだ。動揺しつつも「誰が味方であり、誰が敵であるのな」を鮮明にする戦いの中で我々は決して許しはくはない。プロレタリア人民を搾取し、収奪し、殺戮してゐる我々が「尊敬」すべき敵—ブルジョア権力とをこれに追従し、破廉恥に人民を売り渡してゐる売民貴族どもを。肅清は連合赤軍のやつたことで、我々には一切無関係だとす諸君よ、君等は人民内部の憎むべき敵がある。君達のその破廉恥さ、無責任さが人民内部の団結

5

のアキレス腱になつてあり、更には敵の前全くの無力があるばかりで、敵に笑顔をむかへ入れられてゐることを取じよ。

この問題をめぐる我々の斗いは、これを人民内部の矛盾としてとらえ、この矛盾の解決を敵の手を委ねることなく、一切の悪意と偏見を排し、全人民的政治課題として防衛し、「人民の軍隊—人民」の新たな関係をつくりあげ、武装斗争の強固な陣型を創出すべく教訓化、全体化することであると考へる。社会主義革命戦争の一翼を担うものとして、「団結—批判—大団結」（ホ・チミン）のマルクス・レーニン主義の立場にたつて、労働者・友人、兄弟達と共に反撃を用意しよう。

〈銃撃戦の開始と革命戦争〉

連合赤軍によつて発せられた銃声は、それを敵に包圍された戦いであつても、我々を大いに勇気づけ、敵を恐怖に陥れ、混乱させた。何故ならばそれは極めて政治的な戦争であり、彼等の革命性か全人民の中へ、敵権力が「人魚」の安否をかなりたればそれだけ深く浸透してゐた。追ひこまれたこの銃撃戦が、とて、とて、連合赤軍はただ徹底抗戦し、できるだけ長い時を稼ぎ、できるだけ多くの敵を殺すことによつて、できるだけ銃撃戦で革命をプロレタリアンたることを送んだ。十日間を圧倒的に優利な敵に対して、徹底的

6

に斗ひ、2名の敵を殺し、12名に重軽傷を負わせ、一億円の金を支出させ、日本革命戦争を大きく前進させた。我々は連合赤軍のこの初戦の勝利に敬意を払ふと共に、彼等の冷静さ、沈着さ、とて勇敢さ、忍耐強さ、敵に対する非妥協性を声を大にして賞賛しなければならぬ。

日本に於ける階級斗争は、爆弾の使用が更に銃火器の使用へとむかつてゐるし、それと共に階級対立の非和解性は増々深まつてきてあり、帝国内部者は一步一步アジア侵略反革命戦争にむかつて進み、そのくわよせな労働者階級の集中してあり、黄金奴隷としての労働者階級の憤激は増々強まつてゐる。帝国内部国家権力は、資本家階級が労働者階級を自分の奴隷として、黄金奴隷としてのたぎとめとあく為の暴力組織であり、労働者階級—被抑圧人民は団結してこの帝国内部国家権力—反革命軍隊を暴力革命によつて粉砕、破壊、打倒しプロレタリア独裁権力を樹立することによつて（た自らが解放する道はあり得ず、今日のプロレタリアの解放は世界革命戦争として考へられなくてはならない。

連合赤軍の切り開いた武装斗争の道をすべて清算してしまふのは正しくないことである。敵の反革命宣伝と弾圧に負けずすべてを清算し、日本共産党—宮本修正主義一派と肩を組むのは我々のとるべき道ではない。我々はあさま山荘に於け

7

乃銚重戦の革命性を高く評価する。それ故連合赤軍が、銚重戦が、人民が遊離した、遊離させられたものであったことが残念でない。」「遊離させたか」とことについては我々自身の向題でもあり、主体の飛躍を賭して再度「銚重戦の南始万才！」を言う必要があると思ふ。豊臣秀吉の「刀狩り」によつて武装解除されて以来、帝日主義戦争の時代を除いて、ほとんど武器がしり武器を手にする事なく封建支配なブルジョア支配の下で、決して一方的に敗退しては来ななく、秩父蜂起等の素晴らしい抵抗を示しつつも、なすまままにされてきた日本の人民が、ほんの一握りの者ではあれ銚重を手にして立ち上がったという事は全くすばらしいことなのだ。そしてそれは、どれもなおさう我々の到達した最も高い地平なのだ。我々は全力をあげて教訓を学びとらう。人民の武装の為。」「人民の軍隊—人民」の為。

＜反革命と我々の斗り＞

連合赤軍内の肅清が明らかされるや敵の反革命キャンペーンは更に一段と飛躍して露骨になり、「連合赤軍は殺人者達の狂気の集団であり、彼らの主張する『革命』とは狂気以外の何物でもない。」との宣伝をもちて武装斗争とこれを担う革命兵士を「狂気」として、銚重戦に少なからず心を打たれた「正常な」人民との分断を計り、「連

合赤軍は殺人者集団であり、彼らは革命を主張している。従つて革命とのその交悪である。」との愚鈍かつかなり直線的論理をもちて革命とのその交悪をきたしあげ、これを抹殺せんとしている。敵権力は連合赤軍の兵士達の誤り（これは重大な誤りであり、人民に対する裏切り行為であり、背信行為であつた）を揚げることによつて、「革命」と「人民の武装」を否定し去り、これを最大限利用して破防法—保安処分体制を強化し、革命兵士への無差別な虐殺と人民への専制支配の道を用ひようとしている。

この向のどさくさくまぎれこの沖繩や立川への白刃隊の派兵及び武器の輸送等（これはなく崩壊的、強権的に行なわれゆく危険性が大きい。）もこの為であり、海外復路の野望、これと一体となつた国内への反革命（レット・パー・グレイ）の嵐が強くなつて来ている。

銚重戦を支持し、又支援した「文化人」や弁士に対しても連日、脅迫電話を初め、さまざまのいやがらせがなされて来ている。去る8月23日に起つた、いわゆる「白刃隊朝霞基地（朝霞）襲撃事件」に際し、警察権力は7名の人民を逮捕すると共に、いっその手口である商業誌紙を使った悪意と偏見に満ちた反革命、反暴力、反異常人格者キャンペーンを流布している。更に「グレイボーイ」、「朝日ジャーナル」の商業紙記者に対

「罪証陰滅」、「犯人逃亡の助」などの勝手極まる無理矢理の逮捕で、好意的人民を恫嚇し、いわゆる「警視総監室爆破」、「土田部長室爆破」、「新宿交番ツリー爆破」など一連の「赤色テロル」に際しては、その限りなき恐怖の浮き足立つ小心賢明な未端警察官の動揺を尻目に、都内全域のアムートを対象に、好き勝手「不法侵入」する「ローラ作戦」や、物的証拠はあつた、供述証拠が曖昧な、全くもつてたがひな犯人わり出しによる手配写真や、逮捕状も発行されていぬの、重参考人」として名を、手配写真もどきものを街中ではりめぐらすなど、「市民警察が街の風紀を乱し、健全な市民生活を脅かすことにはなほだしい限りである。敵のこの圧倒的なキャンペーンに対し、意識的、無意識的に拘らず沈黙し、結果的には、屈服しつつある」とは看過しなげない悲しい事実である。人民の軍隊を支持し、支援することにおいて、「人民の軍隊—人民」の一翼たるべくこの向、赤色救援運動を担つてきた我々は、ななる状況に際して全この兄弟たちと共にその警告を發すると共に、味方総体の論争を組織するべく、又それを援助するべく人民への分断策動に抗し、階級斗争の矮小化—歪曲化攻撃をはわのり、「人民の軍隊—人民」の新たな大同団結を形成する為の一助となる決意です。

＜故連合赤軍兵士追悼＞

我々は彼らの追悼をきれいごとと終らせようではない。「あつたため」—、明日の確実な勝利の為の限りなき教訓としてわれわれはなさない。「人民内部の矛盾」云々の通りいっへんの総括だけでは余りにも不十分である。我々は、今後二度と誤つてはならないものとして徹底して自己批判—相互批判をせよとせよとせよとせよ。彼らの死を政治的に利用してはならないこと、肅清の原因を徹底して切開き、「客観的」には人民内部の矛盾であつたもの交、何故連合赤軍内にあるのは敵対矛盾なつたのかを正確に調査し、これを止揚すること、と同時に内部矛盾の解決に際して、革命家としての寛容さを忘れ、内部矛盾を内部矛盾として止揚するだけでなく、敵対矛盾として、肉體的・固定的・独善的に処理したこと、更には味方総体の「人民の軍隊—人民」の陣型の向題にたえることができなかったこと、革命戦争の路線向題と人民内部の団結のあり方々が徹底して批判と論争が展開されねばならないし、我々はその組織する活動に入らねばならない。更に我々は「路線向題」「団結の向題」を語るべき、革命の中の病氣=自供の向題は是非とも示される必要がある。この病氣は我々の生まれつきな体内に宿り今般強く住みついている。連合赤軍兵士達の場合も、彼ら

への取調は一般常識をはるかに越え、長時間に渡る厳しいものである。完全な闘争である。この向題は二人だけとは悲しい現実である。この向題を何々人の思想性の向題としてのみとせざるは正しくない。兵士達の強固な思想は、革命の路線をはっきりさせ、人民内部の団結を育てるが、逆に兵士達の強固な思想は革命の正しい路線の中で増々強固になつてゆくという相互の關係から、自供の根絶は、路線と団結の向題として検討されねばならないと考える。「判事以上申書を書いて、我々の実践と論理を全人民の前で明かす。」これは「誰が味方か、誰が敵なのか？」という基本的な向題を全く曖昧にし、且つ敵に近づかざるを許さず、時々は味方解体の危機に陥し込める反革命行為である。獄内と唯一運動として共有できる公判での闘争を重視し、完全な闘争である兵士を力づけよう。とくに囚われの兵士に対しては、その救援を貫徹しねばならない。彼は敵の手中にあり、破防法一保安処分一監獄法等のきびしい弾圧を一身に、しかも先鋭的に受けている。我々は敵権力の彼への弾圧に對して闘いをいどまねばならないし、その醜悪な意図を全面的に暴露しなればならない。この暴露を通じて「死刑の廃止」「人民の軍隊の防犯」「破防法一保安処分一監獄法粉碎」「刑法改悪阻止」「軍事裁判化阻止」等の大運動を組織せね

ばならない。且つ敵権力によって精神的にも物理的にも悲惨な状況に追い込まれている遺族及び囚われの兵士の家族の向題がある。彼らも最も抑圧された人民として、互いに助け合い、革命戦争の一翼を担うべく、反弾圧抵抗戦線一家族会として団結一組織されねばならない。この杯を闘いのなかで、故連合赤軍兵士を心から追悼すると共に、革命運動の中でこの世を去つていった彼らの共同墓碑(別紙参照)をつくりたいと考へてゐる。肉體的な血縁關係の中で葬られるのは革命の命を捧げた兵士達の本意ではない。我々自身は彼らの死を無駄にしなかり為し教訓として生かす切りに、いつでも彼ら兵士達の前に佇むことができる杯願つて共同墓碑の設立に多くの人々の協力を訴へたい。

同志たちの冥福を祈る。

銃撃戦の開始ろ才!

故連合赤軍兵士追悼!

破防法一保安処分攻撃粉碎!

## 連合赤軍公判対策委員会

設置への呼びかけ

A.はじめに。

運動の昂揚局面よりも、敗北局面においてこそ、日頃、その戦闘的・革命的言辭で装飾していた運動主体の眞価が向われるものである。両者は不可分の冷厳たる現実であるにも拘らず、連合赤軍兵士の体現した武装闘争のリアリティは、「銃撃戦」一「党内軍内矛盾一処刑」を前後にして、権力・マスコミの悪意と偏見の下に報道された。「銃撃戦」として体現された連合赤軍兵士の英雄的死闘については、共に闘うものとしての支持声明は、おろか、何ら意志表示もせず、結果的には、権力・マスコミの総攻撃を容認した多くの部分が今や「党内軍内矛盾一処刑」が表面化するや、それをもつて何と厚顔にも、鬼の首でもとったかの如く、連合赤軍兵士の死闘によってのみ体現された武装闘争のリアリティをこきおろし、又、何と破廉恥にも、自らのみが免罪されるかの如く、その冷厳たる深淵を、空虚な理想像をもって対置し、諷刺している。ましてや、権力の手中に捕らえられている兵士たちへの「異常性格」云々の人格論評など諷刺である。我々は、今回の両者不可分なる現実を、「人民の軍隊一人民、の關係の在り方

、及びそれを包括するところの人民内部の団結の在り方、そしてその矛盾の止揚の在り方」の向題として把えると共に、その現実を、皆無といつていい程に、ほとんど共有しえなかつたことにおいて、連合赤軍兵士をして今回の事態に至らしめた責任を、自ら自身も五十歩百歩に同罪であることとして共有するものである。

我々は、かかる責任において、連合赤軍兵士自身の政治的見解の公開の保障、事実關係(真相)の調査、集約各關係者の見解の集約などの任を負つて、近い将来、決して権力の手中において、今回の現実が、そしてその主役たる連合赤軍兵士が審判され、且つ、二度と共に闘う仲間同志間でおかたる悲劇が起こらないよう、自ら自身の又、後に続かんとする若い仲間たちの教訓へと血肉化するべく、その苛酷で、長期にわたる作業の一翼を担うであろう。

最後に、全ての兄弟たちへ

今こそ、原則を堅持し、大団結し、その恐怖ゆえに、狂喜する権力、マスコミの総攻撃に抗してゆこう。そして、何としても、七十年代版「六全協」の再壊を許してはならないことを再確認しよう。

B.構成